QUESTION ROOM

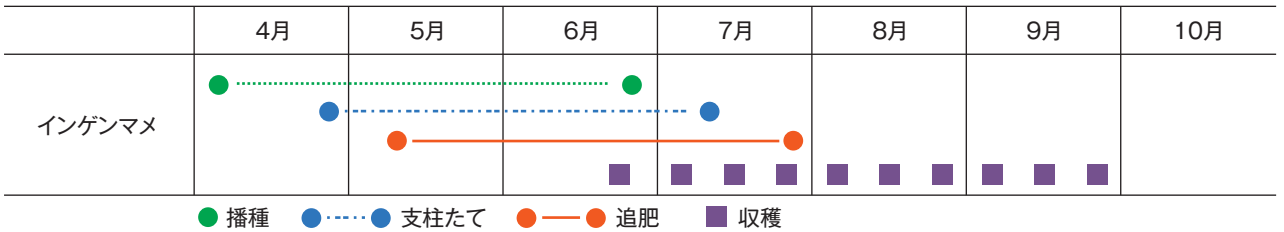
家庭菜園相談室

今月のテーマ

春の家庭菜園におすすめ！～インゲンマメ～

インゲンマメは、若い莢（さや）ごと食べるサヤインゲンが特におなじみです。サヤインゲンには、ツルを伸ばす種と、背丈が低く手軽に栽培できるツルなし種があります。最近では莢が平たい品種も人気になっており、筋が目立たず大きくなっても柔らかいのが特徴です。病害虫の心配も少なく、花もかわいいので家庭菜園におすすめです。

図1　作型目安



栽培のポイント

・連作障害を防ぐため、豆類を栽培した畑では2～3年間隔を空けて作付けしましょう。
・ツルなし種は、種まきから短期間で一斉に収穫できます。一方でツルあり種は収穫期間は長いですが、種まきから収穫まで日数がかかるので、なるべく早くまいて夏季の暑さを避けましょう。

畑の準備	植え付けの2～3週間前に完熟堆肥1キロ/㎡、苦土石灰100グラム/㎡をまき、深さ30センチ位までよく耕します。植え付けの1週間前には化成肥料（N:P:K＝8-8-8）80グラム/㎡を施し、よく耕しておきます。ツルあり種の場合は畝幅90センチ畝高10センチ、ツルなし種の場合は畝幅70センチ畝高10センチの畝を作ります。
種まき	ツルあり種は株間50センチ、ツルなし種は株間30センチとし、深さ2センチほどの穴を掘り、タネを１カ所に3粒ずつまきます。種の大きさの3倍ほどの土をかぶせ、軽く手のひらで押さえます。鳥除け及び虫除け、乾燥防止などのため、不織布で畝を覆い、その上からたっぷりと水をかけます。本葉が出始め、子葉がしぼむ頃まで不織布はかけておきます。
間引き	発芽が揃ったら、1本を間引いて1カ所2本にします。生育の良くないもの、子葉の形の悪いもの、虫食いや病気の疑いがあるものなどを間引きます。
支柱立て	ツルあり種は、ツルが伸び始めたら支柱とネットを立てます。支柱は垂直で良いですが、風当たりが強いところでは合掌式が良いでしょう。支柱を立て終わったら、巻きひげが絡みやすいように、ネットを上下左右しっかり張ります。キュウリ用の網支柱を用いるとツルが自然に絡まっていくのでおすすめです。
追肥	ツルあり種は、本葉5枚の頃と収穫最盛期の頃に、株の周りに化成肥料（N:P:K＝8-8-8）を50グラム/㎡施し、中耕と除草も兼ねて土寄せを行います。ツルなし種は本葉5枚の頃、1回の追肥でよいでしょう。
収穫	ツルあり種は種まき後50～60日、ツルなし種は種まき後1カ月で収穫を迎えます。開花後10日～2週間ほどで収穫できます。長くおくと樹勢が弱まるので早めに収穫します。莢が平たい平莢種は、多少収穫が遅れても柔らかいですが、丸莢種は長くおくと硬くなりやすいので、大きくならないうちに収穫しましょう。
病虫害	アブラムシやカメムシが発生することがあるので、早めに防除します。サヤインゲンであれば農薬は「さやいんげん」、「豆類（未成熟）」、「野菜類」に登録があるものが使用できます。※病気かな？害虫かな？と思ったら何でもJAのTAC（タック）（営農指導員）にお尋ねください。

その他、家庭菜園に関する相談は、JAのTACまでご連絡ください。